

☀ H27 気象特記

- -10℃以下の日は 17 日観測。最低：12/28 の-16.5℃。
- 日照時間 100h 越え：4 月下旬・5 月下旬・8 月上旬の 3 回（過去最多）
- 6/8 梅雨入り。7/19 梅雨明け。7 月中旬～8 月上旬まで最高気温平均が 30℃越え。（8/上：34.1℃）
- 7/29～8/12 の 15 日間連続真夏日観測。（過去最長）
- 8 月中下旬の低日照・多湿。降水量平年比 123%、平均湿度：85%、日照量平年比 39.4%
- 9 月中旬～10 月までの気温の大きな日較差。（日 15℃平均。日中は晴天続き。少雨・乾燥）
- 11 月の異常高温。最高気温 20℃越え 3 日、15℃越え 19 日と過去最高。

☀ 生産の経過特記

- ◆ ふじ満開 4/29（平岡）**12 年ぶりの 4 月末満開**。2 月下旬から生育が平年より大きく進み平年より約 1 週間早い開花期となった。この期間に大きな低温・降霜被害はなし。
- ◆ 梅雨明け後の強日照により日焼けが発生。予想より被害果はやや少なかった模様。
- ◆ 強風・台風接近により、裂傷他の傷害果の比率が多かった。
- ◆ 8 月中下旬以降土壌水分が豊富なこともあり、全域で後半に玉肥大が進んだ模様。
- ◆ 秋映以降の品種に、**ビターピットが発生**。ここ 5 年では一番の発生率。大玉果に多かった。
- ◆ **ふじに果天荒れ（胴サビ）の発生が多発**。急激な果実肥大に伴う症状と見られる。
- ◆ **成熟状況**

全品種で果肉水分量が多く、軟化が早かった。玉伸びも進み（大玉化）、貯蔵性が平年より 7 日程度悪い状況であった。中生種を中心に収穫進度が平年より 7～10 日程度早まった。

☀ 品種別収穫開始期

夏あかり 8/5、サンつがる 8/21、すわっこ 9/12、

秋映 10/1、スイート 10/5、ゴールド 10/15、シナノホッペ 10/20、王林 10/20

百年ふじ 10/25、サンふじ 11/1

☀ 病害虫発生状況と次年度対策

月別発生・感染状況 * () 内は発生程度

- 4～5月：黒星病（多）・うどんこ病（多）・アブラムシ類（並み）・ケムシ類（並み）
- 6～7月：炭そ病（小）・ハダニ（多～極多）・ナシマルカイガラムシ（並み）
- 8月上旬：ハダニ（極多）・シンクイムシ類（並み）
- 8月中下旬：炭そ病（並み）・すす点・すす斑病（並み）
- 10月中下旬～：ふじ輪紋病（並み～やや多）

- ◆ **黒星病**の感染が多く、仕上げ摘果後にも被害果が残る園が目立った。4月中旬の一次感染、5月10～20頃に二次感染。軸部への感染が多く、葉病斑は少なかった。

次年度対策：使用農薬の見直しと予防散布の徹底

- ◆ 紅玉・つがる・スイート・ふじに**うどんこ病**多発。5月の高温乾燥で二次感染が進んだ。ここ数年発生が目立つ。

次年度対策：剪定時に被害芽（越冬源）の除去徹底。予防散布の徹底。（コロナF他）

- ◆ 6月初旬から**ナシマルカイガラ**の被害果が散見。薬液の到達不足部分に多かった。部分的な発生がほとんど。

次年度対策：専用殺虫剤の使用（アプロードF他）。薬液の通り易い環境作り他。

- ◆ 7/10～約1ヶ月に渡りに**ハダニ**類断続発生。お盆以降は小康状態。6月の早い時期から発生が目立った。多発園は葉の機能低下により着色不良・糖度不足等が心配される。

次年度対策：殺ダニ剤ローテーションの見直し、予防散布の徹底（早期密度抑制）

- ◆ **炭そ病**の発生はつがる等では無～小程度であった。ただし、8月下旬に感染した病斑の発生が中生種で発生した。ただし、生産量に大きく影響する程度ではなかった。

次年度対策：梅雨期間薬剤散布の徹底、被害果の早めの除去

- ◆ **すす点・すす斑病**の果実感染発生。（8月末～9月上旬感染分）発生程度は平年並み。

次年度対策：8月下旬～収穫直前まで予防散布の徹底他。

- ◆ **輪紋病**の発生。ふじを中心に10月中下旬以降継続発生。日当りの良い部分に多い。8月下旬～9月上旬に感染したものと見られる。枝の混み合っている部分や感染源（いぼ皮）周辺に発生多い。

次年度対策：予防散布の徹底。薬液の通り易い環境作り他。感染源（いぼ皮）の除去